

「品質管理基本」

開催日：令和6年6月5日（水）

申込期限：令和6年5月15日（水）

実施会場：ポリテクセンター宮崎

1 | カリキュラム内容

推奨対象者：初任層

ねらい：品質管理の考え方を理解し、QC七つ道具を使って課題への対処ができる知識と技能を習得する。

基本項目	主な内容
1 品質管理の考え方	(1) 品質管理の重要性 ・品質「管理」と品質「保証」の違い ・品質に対する考え方 ・製造部門の役割（不良発生が及ぼす生産への影響） (2) 品質の造り込みと初期管理と日常管理 ・作業標準書の作成方法 ・自社の作業標準書の改善ポイント抽出と討議 【演習】改善を踏まえた作業標準書の作成 ・改訂と標準を守ることの重要性 (3) 【演習】～品質の感性を磨く～
2 QC七つ道具	(1) 品質の造り込みを日常管理QC手法の活用と実践 ・QC7つ道具とは グラフ、チェックシート、パレート図、ヒストグラム 特性要因図、散布図、管理図 ・QC手法の活用と実践 (2) 特性要因図の作成と考察（グループワーク） QC7つ道具の1つである「特性要因図」。 実際には「答えありき」で作成されることも少なくないのが現状です。今回のグループワークでは日常的なテーマに対して特性要因図を作成して頂き、作成の際の着眼点、またそれを活用してどのように解析を進めていくのかという問題解決思考も実践から学んで頂きます。

※受講者の当日のご様子を見て、主な内容を変更・追加する場合がございます。

2 | 講師紹介



松村 佳洋 / 一般社団法人中部産業連盟 執行理事

大手商社で輸入生地製品の製品企画から生産管理、製造、販売までのプロセスを一貫通貫で経験。現在は製造現場の生産性向上コンサルティング、生産分野の研修講師を多数担当。受講者目線の分かりやすい講義が強み。

カリキュラム作成のポイント・ひとこと

「品質管理の考え方」では知識だけではなく、実際の生産現場で発生する様々な現象に対処、対策することが重要です。本講座では前半は品質に対する意識を喚起すると共に品質に対する感性の大切さを演習を通じて体感して頂きます。また後半では現場管理で活用すべきQC7つ道具を実際に演習を通して活用して頂き、実際に現場での活用頻度の高い「特性要因図」を用いた演習を行うことにより、理解の定着を図ります。